


チューナーベース ユニット

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

 **警告** 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MB-806

安全のために

本機は安全に十分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3~4ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

定期点検をする

長期間安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたりキャビネットを破損したときは

- ➡ ① 電源を切る。
② 電源コードや接続ケーブルを抜く。
③ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡する。

炎が出たら

➡ すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示

目次

⚠ 警告	3	接続	10
⚠ 注意	4	チャンネル設定	11
概要	5	空きチャンネル自動検索 / 設定機能	12
本機の性能を維持するために	6	操作	13
受信チャンネルの選択	6	ミュート機能	13
チャンネルプラン	6	エラーメッセージ	14
各部の名称と働き	7	ラックマウント	14
前面	7	主な仕様	15
ディスプレイ部	7	保証書とアフターサービス	16
後面	8		
WRU-806の取り付け	9		



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがにつながる可能性があります。



分解禁止

外装をはずさない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電の原因となります。内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



禁止

電源コードおよび接続ケーブルを傷つけない

電源コードおよび接続ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードおよび接続ケーブルを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
 - 電源コードおよび接続ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードおよび接続ケーブルが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがにつながる可能性があります。



禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置・使用しない
上記のような場所およびパワーアンプなど発熱体の近くに設置すると、火災や感電の原因となることがあります。



指示

本機は日本国内用です
交流 100V でお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。



指示

安定した場所に設置する
本機を据置で使用する時、ぐらついた台の上や傾いたところなどに設置すると、製品が落下してけがの原因となることがあります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で AC 電源コードや本体をさわらない
ぬれた手で AC 電源コードや本体をさわると、感電の原因となることがあります。



注意

小型のマイナスドライバーで脚のピンを外す
ラックマウントするとき、脚の真ん中に付いているピンを外す必要があります。小型のマイナスドライバーを使用してください(14ページ参照)。他の先が鋭利な物を使用すると、けがの原因となることがあります。



指示

受信待機時や電源の ON/OFF 時には、接続した機器の入力を絞る
受信待機時や RF(高周波)入力レベルが小さくなったとき、また電源の ON/OFF 時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。

この取扱説明書では、チューナーベースユニットMB-806に、別売りのUHFシンセサイザーチューナーユニットWRU-806を取り付けた状態で操作説明をしています。

本機は、806～810MHz帯を使用した特定小電力無線局(B型)に対応したUHFシンセサイザーダイバーシティチューナーです。ソニーUHFワイヤレスマイクロホンやトランスミッター(WRTシリーズ)と組み合わせて使用します。

チューナーベースユニットMB-806に、UHFシンセサイザーチューナーユニットWRU-806を6台取り付けることにより、6チャンネル同時運用が可能です。

PLLシンセサイザー方式

簡単なボタン操作で、B型30チャンネルの切り換えが可能です。

多チャンネル同時運用チャンネルプランを内蔵

B型標準チャンネルプランがプログラムされており、多チャンネル同時運用でも混信がなく、安定した受信が可能なチャンネル設定を容易に行うことができます。

モジュラー方式による多チャンネル受信

チューナーベースユニットMB-806に、UHFシンセサイザーチューナーユニットWRU-806を取り付けることにより、最大6チャンネルの受信が可能です。

多彩な情報表示

受信チャンネル、高周波入力レベル、送信機のバッテリーアラームなど、各種の情報を液晶ディスプレイやインジケータで表示することができます。

スペースダイバーシティ方式

ドロップアウトのきわめて少ない安定した受信ができます。

トーンスケルチ回路

受信待機時に不要信号やノイズの出力を防ぐトーンスケルチ回路が内蔵されています。

コンパンダー(帯域圧縮・伸長)伝送方式

無線伝送系の外来雑音に強く、広域エリアでの運用が可能です。

ラックマウント

EIA規格の19インチ標準ラック(1Uサイズ)にマウントすることができます。

本機の性能を維持するために

- 本機は周囲温度0 ~ 40 の範囲で使用してください。
- 本機を電力機器(回転機、変圧機、調光器など)に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたって電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- 本機を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生(マイクロホニック)の原因となり、規定のS/Nを満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、十分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA(Public Address)システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶついたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。
- 表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

受信チャンネルの選択

本機は、B型帯域30チャンネルのうち、任意に選択した1チャンネルを受信します。

ワイヤレスマイクロホンやトランスミッターを同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャンネルの組み合わせが豊富に用意されています。

はじめにグループを指定し、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易に行えます。ワイヤレスマイクロホンまたはトランスミッターの送信チャンネルを、本機を受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

チャンネルプラン

グループ名	00					
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52	
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	
	B-16	B-26	B-36	B-46		

グループ名	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52	
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	
	B-16	B-26	B-36	B-46		

ご注意

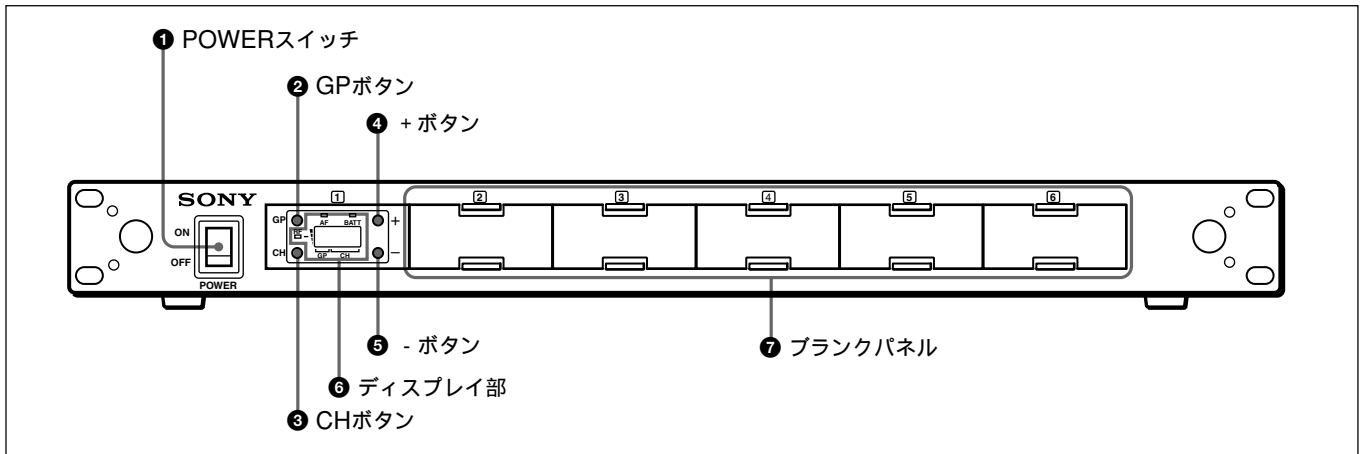
本機にはプログラムされていませんが、上記チャンネルプラン以外に7チャンネル同時運用のためのソニーオリジナルチャンネルプランが2つあります(下表)。

グループ00またはグループB-1 ~ B-5 でチャンネルを設定してご使用ください。

グループ名	B-7	B-8
チャンネル名	B-11	B-21
	B-12	B-31
	B-33	B-13
	B-52	B-14
	B-54	B-25
	B-36	B-16
	B-55	B-46

各部の名称と働き

前面



1 POWER (電源) スイッチ
本機の電源をON/OFFします。

2 GP (グループ) ボタン
グループを切り換えるとき、このボタンを押しながら、+または-ボタンを押します。

3 CH (チャンネル) ボタン
同じグループ内のチャンネルを切り換えるとき、このボタンを押しながら、+または-ボタンを押します。

4 + ボタン
グループまたはチャンネル切り換えを先に進めるとき、GPボタンまたはCHボタンを押しながら+ボタンを押します。
単独で押すと、ディスプレイ部が周波数表示に切り換わります。

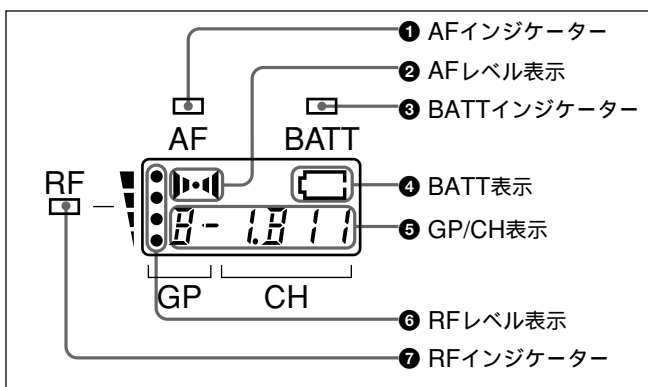
5 - ボタン
グループまたはチャンネル切り換えを戻すとき、GPボタンまたはCHボタンを押しながら-ボタンを押します。

6 ディスプレイ部
設定されているグループやチャンネルおよび各種情報を表示します。

詳しくは、次項「ディスプレイ部」をご覧ください。

7 ブランクパネル
別売りのUHFシンセサイザーチューナーユニットWRU-806を取り付けるときは、これらのパネルを取り外します。

ディスプレイ部



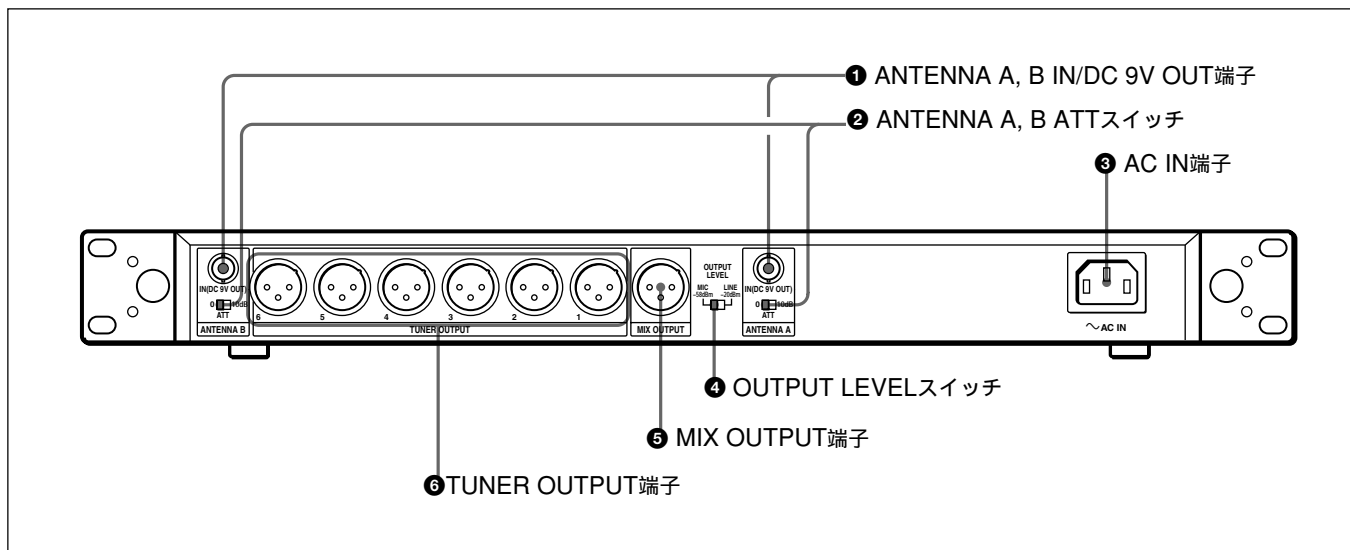
1 AF (音声出力) インジケータ
2 AF (音声出力) レベル表示
基準レベル以上の音声信号が出力されるとインジケータが点灯し、表示が現れます。

3 BATT (電池) インジケータ
4 BATT (電池) 表示
バッテリーアラーム機能付き送信機の電池がなくなる約1時間前に表示が現れ、点滅を始めます。
点滅が始まる時間は、送信機に使用している電池のタイプおよび状態によって異なります。

5 GP/CH (グループ/チャンネル) 表示
受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。+ボタンを押すたびに、受信チャンネルのグループ/チャンネル表示と周波数表示が切り換わります。

6 RF (高周波入力) レベル表示
7 RF (高周波入力) インジケータ
接続したアンテナの受信状態が良好なときインジケータが点灯し、表示(ドット)が現れます。高周波入力のレベルにより、点灯する表示(ドット)が変わります。

後面



① ANTENNA A, B IN(アンテナA、B入力)/DC 9V OUT(DC 9V出力)端子(BNC型)
 それぞれ、付属のアンテナまたは別売りのUHFアンテナAN-820を取り付けます。
 AN-820を取り付けたときは、この端子からアンテナの内部ブースターにDC 9Vの電源が供給されます。

ご注意

この端子をショートさせないでください。

② ANTENNA A, B ATT(アンテナA、Bアッテネーション)スイッチ
 RFアッテネーションのレベルを0dBまたは10dBに設定します。
 通常：0 dBに設定してください。混信・妨害などによりノイズや音切れが発生する場合は、10 dBに設定してください。
 ただし、ANTENNA A、B IN/DC OUT 端子に接続するアンテナに合わせて以下のように設定することをおすすめします。
 付属のアンテナを使う場合：0 dB
 別売りのUHFアンテナAN-820を使う場合：アンテナとチューナーを接続する同軸ケーブル(5D-2V、RG-212/Uなど)の長さが30 m以下のときは10 dB、30 mを超えるときは0 dB

③ AC IN(AC電源入力)端子
 付属のAC電源コードでAC電源に接続します。

④ OUTPUT LEVEL(出力レベル)スイッチ
 MIX OUTPUT端子およびTUNER OUT端子の出力を - 20 dBmまたは - 58 dBmに設定します。(0 dBm = 0.775 Vrms)
 接続する機器の入力レベルに応じて切り換えてください。

⑤ MIX OUTPUT (ミックス出力)端子(XLR型)
 6台のチューナーユニットのミックス音声を出力します。ミキサー、アンプなどの音声入力端子に接続します。

⑥ TUNER OUTPUT(チューナー音声出力)端子(XLR型)
 各チューナーユニットに対応した音声信号を出力します。ミキサー、アンプなどの音声入力端子に接続します。

WRU-806の取り付け

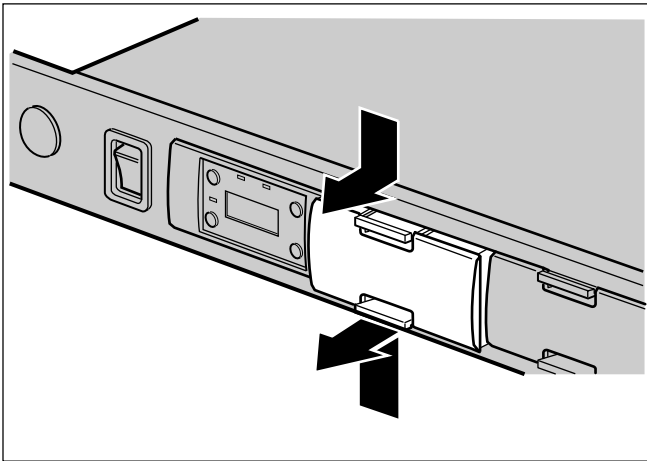
本機は、WRU-806を6台まで取り付けることができます。

ご注意

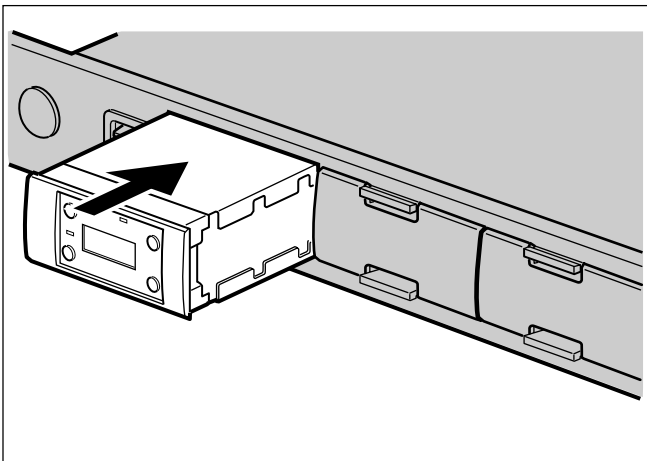
- 必ず本機の電源をOFFにしてください。
- WRU-806前面のボタンや表示部を強く押すとこわれることがあります。必ずWRU-806側面を持ってください。
- WRU-806後面の端子部に手を触れないでください。
- 静電気にご注意ください。

取り付けかた

- 1 WRU-806の側面を持ってスロットに入れ、カチッと音がするところまで押し込む。

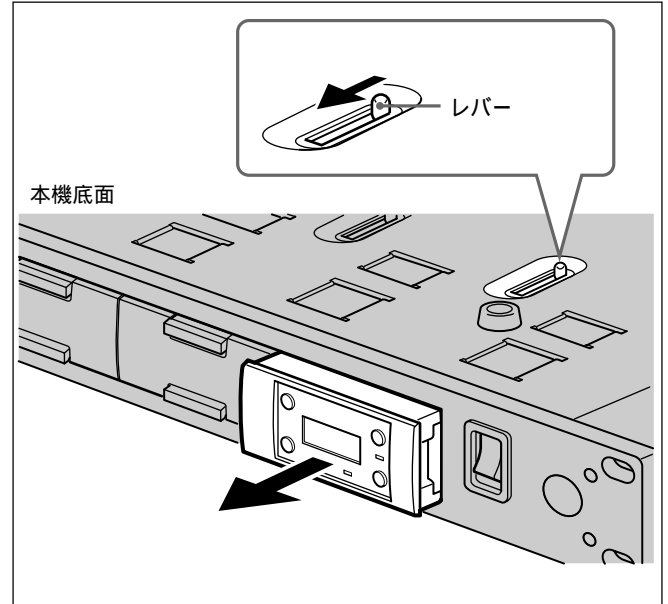


- 2 2台以上のWRU-806を取り付けるときは、ブランクパネルの上下タブを押してブランクパネルを外し、1台ずつ手順1を行います。

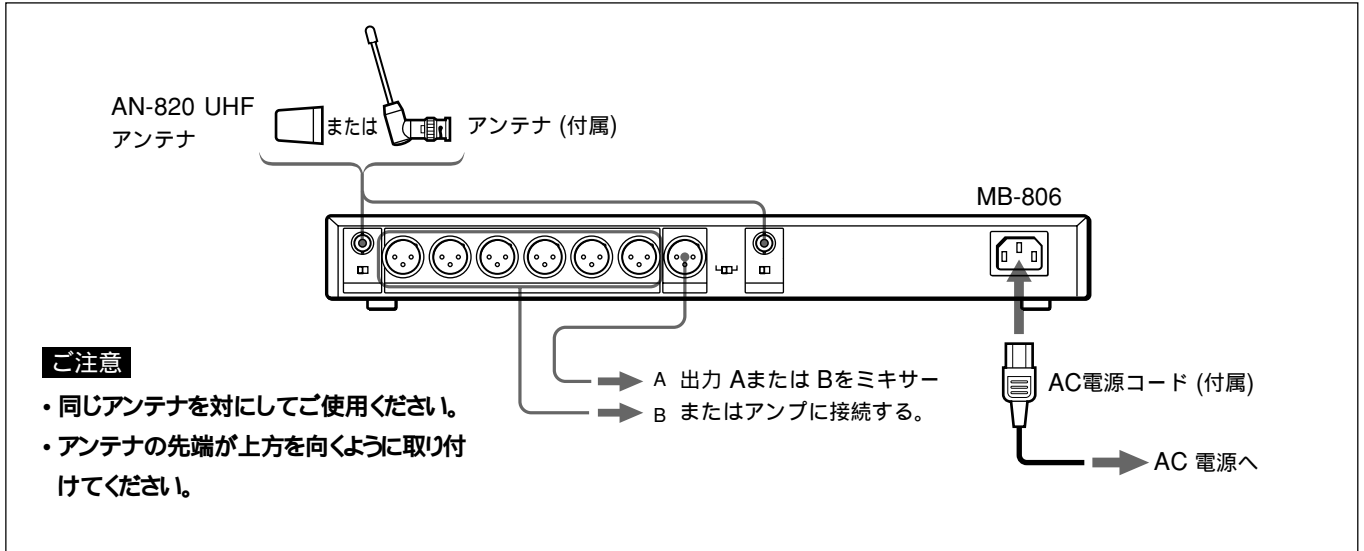


取り外しかた

本機底面の、WRU-806を取り付けたスロットに対応するレバーを手前に引くと、WRU-806がスロットから出てきます。



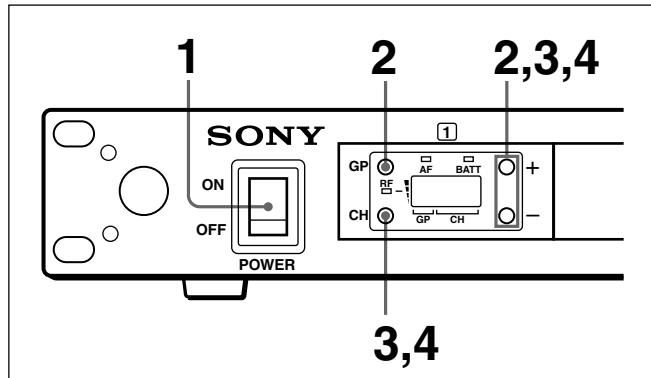
接続



チャンネル設定

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 本機を同時に2台以上使用する場合は、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。(00グループ以外)



1 POWERスイッチを押す。

ディスプレイ部に「HELLO」のメッセージが表示され、電源を切る前に設定した表示となります。

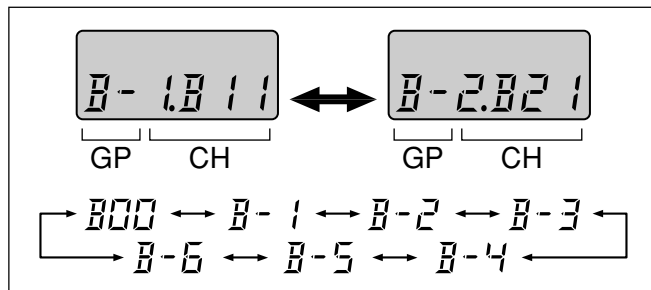
ご注意

電源をONにするとノイズが発生しますので、接続した機器の入力を絞ってからPOWERスイッチを操作してください。

2 GPボタンを押したまま、+または-ボタンを押してグループを選択する。

+または-ボタンを押すたびに、下図の順にグループ表示が切り換わります。

押し続けると連続して切り換わります。



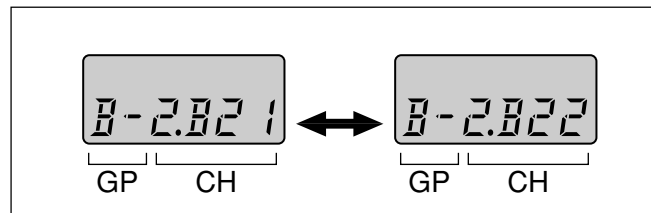
CH表示は、選択したグループで周波数の一番低いチャンネルになります。

両ボタンを離すと、自動的に選択モードが解除され、表示されているグループが設定されます。

3 CHボタンを押したまま、3秒以内に+または-ボタンを押してチャンネルを選択する。

手順2と同様に、+または-ボタンを押すたびに、「チャンネルプラン」の表に示す順にチャンネル表示が切り換わります(6ページ参照)。

グループ内の最後のチャンネルが表示されているとき、+ボタンを押すと最初のチャンネルに戻ります。

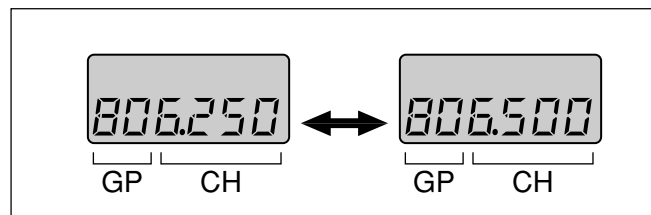


周波数を表示してチャンネルを選択するには+ボタンを押します。

表示がグループ、チャンネル表示から周波数表示に切り換わります。

CHボタンを押しながら+ボタンを押すと周波数が上がり、-ボタンを押すと下がります。

もう一度+ボタンを押すと、グループ、チャンネル表示に戻ります。



4 希望のチャンネル、または周波数が表示されたら、CHボタンと+または-ボタンを離す。

選択したチャンネルが設定されます。

グループ/チャンネルのメモリーについて
上記の手順で選択、設定したグループ/チャンネルは、ディスプレイ部に表示されてから1秒後にメモリーされます。

空きチャンネル自動検索/設定機能

多チャンネル同時運用時、複数のチャンネルを設定するときは、1番のチューナーユニットに対してグループを設定すると、他のチューナーユニットを自動的に同じグループの異なるチャンネルに設定することができます。

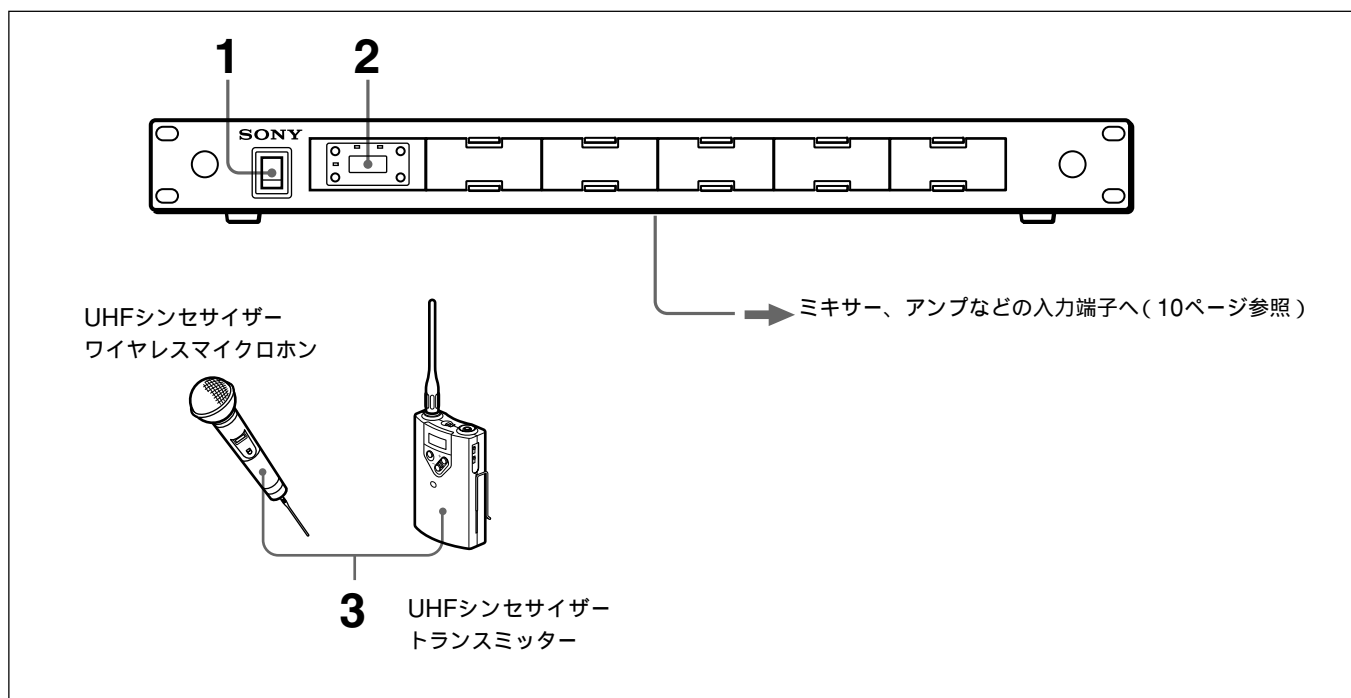
- 1** マイクロホンまたはトランスミッターの電源をすべてOFFにする。
- 2** 1番目のチューナーユニットに対して、使用するグループを設定する。
- 3** 1番目のチューナーユニットのCH ボタンを3秒以上押す。

1番目のチューナーユニットおよび他のチューナーユニットが、同じグループの異なるチャンネルに設定されます。

自動設定後、各チューナーのグループおよびチャンネルを個別に変更することもできます。

ご注意

- グループ00以外で行ってください。
- 空きチャンネルがない場合は、「NO CH」と表示されます。



- 1 POWERスイッチをONにします。
ディスプレイ部に「HELLO」のメッセージが表示され、電源を切る前に設定した表示になります。

ご注意

電源をONにするとノイズが発生しますので、接続した機器の入力を絞ってからPOWERスイッチを操作してください。

- 2 受信チャンネルを設定します。
詳しくは「チャンネル設定」(11ページ)をご覧ください。

- 3 ワイヤレスマイクロホン、またはトランスミッターの電源を入れます。
ワイヤレスマイクロホン、またはトランスミッターのチャンネルは、ご使用前に本機と同じチャンネルに設定してください。

雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。

このような場合は、使用チャンネルを設定するときに、ワイヤレスマイクロホンやトランスミッターの電源をOFFにしたまま本機のチャンネルを切り換え、RF表示が点灯していないチャンネル(雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル)を選択して使用してください。ワイヤレスマイクロホンやトランスミッター側も、同じチャンネルに設定してください。

ご注意

混音や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 同じチャンネルに設定したマイクロホンやトランスミッターを同時に2本(2台)以上使用しないでください。

- チューナーユニットを同時に2台以上使用する場合は同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。
- 送信機と受信アンテナは互いに3m以上離して使うことをおすすめします。
- 2つ以上のシステムで同一グループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を100m以上離してください。(距離は使用環境により異なります。)

ミュート機能

本機には次のような3種類のミュート機能があり、3種類の機能を同時にON/OFFします。

- (1) RF(高周波)入力レベルによるミュート機能
高周波入力レベルが、設定したRFミュートレベル以下になると、音声出力がミュートされます。
- (2) トーンスケルチによるミュート機能
規定のトーン信号が含まれている電波を受信しない限り、音声出力がミュートされます。
- (3) ノイズスケルチによるミュート機能
ノイズが一定レベル以上になると、音声出力がミュートされます。

ミュート機能を解除(OFF)するにはGPボタンとCHボタンを同時に押しながら、電源スイッチをONにします。ディスプレイ部の表示がすべて点灯したあと、「OFF」と表示され、上記の3つのミュート機能がすべて解除されます。

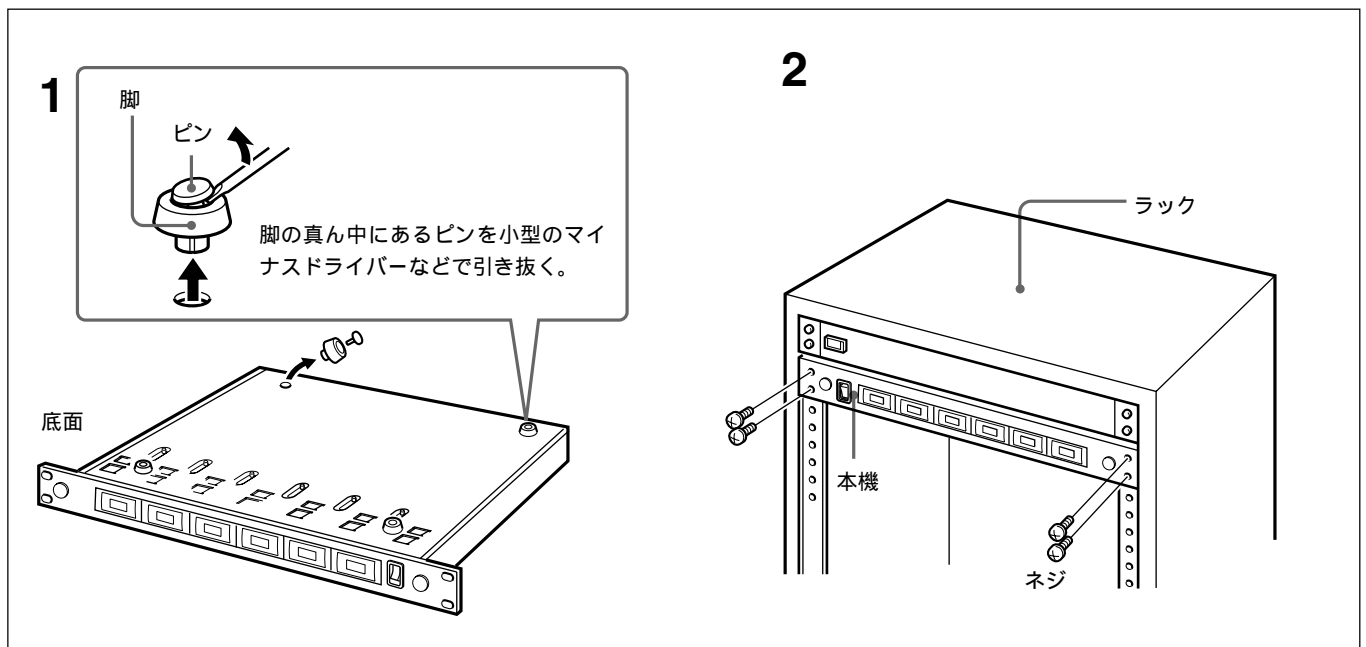
ミュート機能を設定(ON)するには電源スイッチを1度OFFにして、再びONにします。上記の3つのミュート機能がすべて設定(ON)されます。

エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常の表示の他に次のようなメッセージが表示されます。

メッセージ	内容	対応
Err 01	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	データが初期化されるため、グループ、チャンネルを再度設定してください。
Err 02	PLL シンセサイザ回路に異常があります。	ソニーのサービス窓口にお持ちください。
NO TONE	トーン信号がないか、または32.768kHz以外のトーン信号の電波を受信して音声信号出力がミュートされています。	別の送信機に替えてご確認ください。問題がなければ、ご使用の送信機に異常があります。別の送信機でも同じように「NO TONE」が表示されれば、ご使用の受信機に異常があります。ソニーのサービス窓口にお持ちください。

ラックマウント



1 本機の脚を外す。

2 ラックのネジ径に合ったネジ(有効長12mm以上)を使ってラックに本機を取りつける。

主な仕様

チューナー部 (WRU-806装着時)

電波型式	110KF3E
回路方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信周波数	806.125 ~ 809.750MHz
局部発振	水晶制御PLL シンセサイザー
2信号選択度	60 dB 以上 (± 250kHz 離調時)
スプリアス妨害比	70 dB 以上
イメージ妨害比	60 dB 以上
RFミューティングレベル	30 dB μ ¹⁾
アンテナ端子	BNC-R、50
周波数特性	100 ~ 15,000Hz \pm 3dB
ディエンファシス	50 μ s
信号対雑音比	40dB 以上、20dB μ 入力時(A-weighted) 60dB 以上、60dB μ 入力時(A-weighted) (周波数偏移 \pm 5kHz、変調周波数 1kHz 時)
ひずみ率	1.0% 以下(周波数偏移 \pm 40kHz 時、変調周波数 1kHz)
トーン信号周波数	32.768kHz
出力レベル	
ライン	- 20dBm ¹⁾ (周波数偏移 \pm 5kHz、変調周波数 1kHz 時)
マイク	- 58dBm(周波数偏移 \pm 5kHz、変調周波数 1kHz 時)
ミックス出力レベル	
ライン	- 20dBm(周波数偏移 \pm 5kHz、変調周波数 1kHz 時)
マイク	- 58dBm(周波数偏移 \pm 5kHz、変調周波数 1kHz 時)
出力インピーダンス	150
出力端子	XLR-3-12C

電源部・その他

電源電圧	AC 100V、50/60Hz
消費電力	30W
アンテナブースター供給電圧	DC 9V (最大100mA)
許容動作温度	0 ~ 40
許容保存温度	- 20 ~ + 55
外形寸法	482 x 44 x 300 mm (幅 / 高さ / 奥行き)
質量	約3.6kg (チューナーユニット含まず)
付属品	AC 電源コード(1) 3 極→2 極変換プラグ(1) アンテナ(2) 取扱説明書 (1) 保証書(1) ソニー業務用ご相談窓口のご案内(1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

1) 0dB μ = 1 μ V

2) 0dBm=0.775Vrms(600 負荷)

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは
お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

この説明書は再生紙を使用しています。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Japan